

バリケード 設置30秒

トライ・ユーが折り畳み式

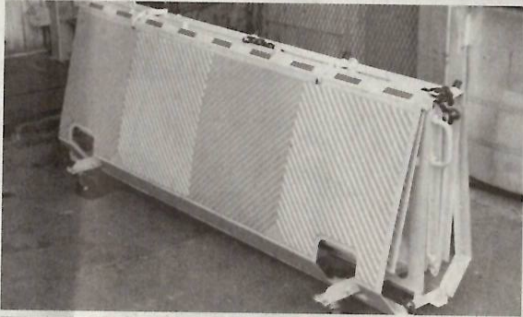
警備用品開発のトライ・ユー(札幌市)は白石ゴム製作所(同)と共同で、暴走車両によるテロを防ぐバリケードを開発した。キャスター付きで移動や設置が簡単なほか、折り畳み式のためコンパクトに収納できる。2020年の東京五輪など大規模な国際イベントの国内開催を見据えて警備会社向けなどに拡販し、国際特許を取得して海外への輸出も目指す。

暴走車対策、輸出も視野

開発したバリケードの名称は「ヘラクレス」で、北海道警察と警備会社から相談を受けて開発した。暴走車両が衝突すると柵が衝撃を吸収し、背面にあるピンが地面に突き刺さることで車を停止させる仕組みだ。付属のスパイクピンをかぶせれば、雪の積もった路面でも車の進入を防げる。キャスター付きで、大人が1人でスーツケースの



テロ対策用バリケード「ヘラクレス」は中型と小型の2種類を発売した(写真上)。折り畳み式で移動も簡単(同下)



き刺さることで車を停止させる仕組みだ。付属のスパイクピンをかぶせれば、雪の積もった路面でも車の進入を防げる。キャスター付きで、大人が1人でスーツケースの

型は1段で畳めば車に積み込めるほど小さい。複数のヘラクレスをチェーンで連結すれば阻止効果を落とさずに幅を広げられる。緊急車両を通す場合は、チェーンを外せば簡単にバリケードを解ける。価格は中型が税抜きで80万円、小型が同50万円。レンタルやリースでの活用も想定している。

暴走車両対策のバリケードは従来、地面に穴を掘って埋め込む形で設置するものが主流だった。大規模な工事が必要で設置費用も高額となること

が多く、中には1基で数千円するようない製品もあった。ヘラクレスは今年、北海道の初夏の風物詩「よさこいソーラン祭り」で12基設置されたほか、8

月に東京で開かれた「六本木ヒルズ盆祭り」でも採用された。工事現場に危険運転車が進入するのを防ぐことができ、札幌市内の道路工事現場にも導入されている。積雪路面に対応できるため当初は道内での販売を見込んでいたが、本州方面からの引き合いが強

く、東京や仙台、茨城からは販売代理店契約を望む声もあるという。トライ・ユーはヘラクレスの海外販売を見込み国際特許の出願を予定している。上杉章社長は「欧

米を中心とした海外の方が必要が高いはず」と話

米を中心とした海外の方が必要が高いはず」と話す。海外ではドイツで16年にクリスマス市場にテロ目的でトラックが突っ込み12人が死亡するなど車を使ったテロが多発している。

「勝手丼」軽減税率に苦慮



持ち帰り(消費税率8%)か、店内飲食(同10%)の関係を悩ませている。

10月からの消費増税に伴う軽減税率の取り扱いをめぐり、釧路名物「勝手丼」を販売する釧路和商市場(釧路市)は、各鮮魚店を回

持ち帰り客の店内飲食 釧路和商市場、対応を協議

「勝手丼」はカップに入った白飯を買い、ホタテやイクラなど好みの海産物を乗せて食べる。持ち帰り客が店内で飲食する場合はの線引きが難しく対応を迫られている。

道工技センター 協定を来月締結

はこだて未来大と北海道立工業技術センター(函館市)と公立はこだて未来大学(同)は10月9日、連携・協力協定を締結する。はこだて未来大が持つ人工知能(AI)などの分野で、研究協力や人材の育

テンフードサービス

力をつけていく姿勢にブレはない。売上高は現在約24億円。目標の30億円を目指す